

『くるみわり人形とねずみの王さま』 富山房  
E・T・A・ホフマン／著 山本 定祐／訳

部屋の真ん中の大きなもみの木に、きらめく飾りとたくさんの贈り物。その中でも7歳の末っ子マリーのお気に入りには、感じの良い小男のくるみ割り人形だった。夢のようなクリスマスイブの光景で物語は始まるが、真夜中になると、恐ろしい7つの頭を持つねずみの王様が戦いを仕掛けてくる。マリーは、人形たちを指揮するくるみ割り人形と共に対決する。



チャイコフスキー作曲のバレエでも有名な物語。一種のクリスマス物語として知られているが、原文を全て翻訳したこの本は、幻想的でどこか不気味で独特な世界が広がっている。